



安藤幸江先生の経歴と業績
(安藤幸江教授退職記念号)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 安達, みち代 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/9779

安藤幸江先生の経歴と業績

安藤先生が、この3月で定年退職を迎えられることになった。先生は、滋賀県立短期大学、追手門学院大学、大阪女子大学、大阪府立大学と、通算すれば31年半の大学教員生活にピリオドを打たれる。ご本人にとっては、どんなに感慨深いことだろう。そして、何よりもこの長い年月をつつがなく勤められ、退職の日を迎えられたことに、お慶びを申しあげたい。

大阪府立大学には2年、その前身の大阪女子大学には3年と、短期間ではあったけれども、新しい大阪府立大学の礎を築くために多くの貢献をされた。先生の母校でもあった大阪女子大学では、学科主任、学務委員などの要職を歴任され、教育面においては、イギリス文学関係の中心的存在として、大学院の「英文学演習」、学部の「イギリス文学史」や「イギリス詩研究」などの授業を担当された。修士論文や卒業論文も熱心に指導された。新生大阪府立大学では、英米言語文化専攻の教員として大きな存在感を示された。大学院の学生を指導され、「イギリス言語文化特論」、「言語文化学特別演習」などを担当なされ、2007年3月には、先生の指導による英米言語文化分野初めての二名の博士前期課程修了生を送り出すことになる。2006年には、ニュージーランドのマッセイ大学との学術交流協定締結に向けて中心的な役割を果たされ、マッセイ大学との国際シンポジウムをも企画実行された。

先生の研究分野は、詩を中心とするイギリス文学であり、ジョン・キーツ、マザーグース、クリスティーナ・ロセッティがご専門であった。とりわけイギリス・ロマン派の代表的詩人キーツ研究は、同志社大学大学院の修士時代、大阪大学大学院の博士課程時代から取り組まれ、その成果は、『キーツ 二つの「ハイピリオン」——その同一性と差異性——』（1988）、その英語版である *A Comparison of Keats' Hyperion and the Fall of Hyperion* (1995)、『キーツ 光への旅——

詩神に捧げられた魂』（1998）の三冊の研究書に結実している。

また、先生は、マザーグースの詩を視聴覚的にとらえる初めての試みとして、大学生用のテキスト、*Nursery Rhymes* 『ビデオで楽しむマザーグース』を上梓され、学生たちと一緒にマザーグースの世界を楽しまれた。茨木市立生涯学習センターでは、運営委員をなさり、茨木市民たちにも、ロマン派の詩やマザーグースを教えてこられ、2001年には、茨木市教育功労賞を授与された。クリスティーナ・ロセッティについては、『シング・ソング童謡集』（2002）という翻訳書を出版されている。

先生は、イギリス・ロマン派学会の創立まもない頃からの中心メンバーであり、長らく理事をなさり、2005年からは副会長である。マザーグース学会関西支部支部長など、学会でも活躍されている。また、*Keats-Shelley Memorial Association*、*Friends of Keats House Hampstead*などの会員であり、ケンブリッジのウルフソン・コレッジの客員研究員（一年間）やオーストラリアの南クィーンズランド大学の交換教授など、海外でのご研究や発表の経験も豊富である。

先生は、常に明るく前向きで、チャレンジ精神が旺盛であられた。お生まれがパラオということなので、その影響もあるかもしれない。ご家庭では妻の役割と二人のお子様の母親の役割をされていたので、仕事との両立は大変だったと思われるが、「私はガンバリがきくの」「私は何でも楽しんで出来るの」と言っておられた。忙しい中でも、学会の懇親会や入学式・卒業式は、あでやかな着物姿で、自ら楽しみ、私たちの目をも楽しませてくださった。

いま先生は、キーツの詩とパストラルの伝統に関する研究をなさっておられ、退職後も意欲的に研究を続けていかれるそうである。どうかこれからもますますお元気で、ご活躍なさることをお祈りしたい。

安達 みち代